

# 「学びの変革」アクションプラン

## ICT機器を「効果的に」活用した授業づくり

～「主体的で深い学び」を実現するために～

### 1 目的

「課題発見・解決学習」において、ICT機器を効果的に活用することにより児童生徒の主体的に学ぶ力の育成を促進する。

### 2 平成30年度の達成目標

- ・ICTを活用して児童生徒の「主体的で深い学び」を実現する。
  - ①効果的な支援
  - ②児童生徒の意欲を高める
  - ③児童生徒の主体性を高める
  - ④児童生徒の（生活の）質の向上
- ・教師がICTの特性を理解し、ICTを効果的に活用することを意識して、児童生徒の実態に応じた活用や児童生徒が主体的にICTを活用する場面のある授業づくりを行う。
- ・管理方法、セキュリティ対策、情報モラルの指導等の校内体制の構築を進める。

### 3 取組計画（スケジュール）

月	日	項目（研修、協議等）	概要（研修テーマ、教科・科目、講師）
4	24	校内研修	○平成30年度の研究計画（概要）
5	1	校内研修	○平成30年度の研究計画（詳細） ○「ICT活用推進プロジェクト」の取組 （モデル校 2期目として）
6	1	校内研修	○ICTを用いた授業 ○広島大学 氏間先生及び特別支援教育課 村上指導主事による授業参観，指導助言
6	21	サテライト研修	838 教育の情報化 「ICTを効果的に活用した授業づくり」講座 ○ICTを用いた授業 ○広島県立教育センター 教育情報部 大下指導主事による授業参観，指導助言，講演
7	3	校内授業研究会	○ICTを用いた授業 ○広島大学 氏間先生及び特別支援教育課 村上指導主事による授業参観，指導助言
7	23 24	校外研修 (国立特別支援教育総合研究所)	○「平成30年度特別支援教育における ICT活用に関わる指導者研究協議会」
8	9	公開研修会	○ICTを用いた授業の紹介 ○広島大学 氏間先生による講演
8	24	校外研修 (尾道特別支援学校 本校)	○ICTを用いた授業の紹介

8	30	校外研修（教育センター）	○平成30年度「学びの変革」ICT活用推進プロジェクト 第2回研修会（中間報告）
9		校内研修（予定）	○ICTを用いた授業 ○広島大学 氏間先生及び特別支援教育課 村上指導主事による授業参観，指導助言
9	14	実践報告 （広島県教育委員会事務局）	○平成30年度「学びの変革」ICT活用推進プロジェクト 中間報告（様式1～6）
11		校内研修（予定）	○ICTを用いた授業 ○広島大学 氏間先生及び特別支援教育課 村上指導主事による授業参観，指導助言
12	5	校内授業研究会	○ICTを用いた授業 ○広島大学 氏間先生及び特別支援教育課 村上指導主事による授業参観，指導助言 ○広島大学 氏間先生による講演
1		実践報告 （広島県教育委員会事務局）	○平成30年度「学びの変革」ICT活用推進プロジェクト 平成30年度の取組内容の報告
2		校外研修（教育センター）	○平成30年度「学びの変革」ICT活用推進プロジェクト 平成30年度の取組内容の報告



広島県立教育センター 教育情報部  
大下美代子指導主事による講演（6/21）



広島大学大学院 教育学研究科  
氏間和仁准教授による講演（8/9）

#### 4 活用事例

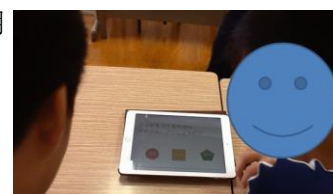
小学部児童：学校探検等で校内を撮影して回り，教室で何を撮ったか，誰を撮ったか等確認する振り返りの教材として活用した。実態に応じて撮影は教員との協同作業。生き物の観察では，iPadのカメラ機能を活用し，注目させたい生き物を画面に映すことで，「見る」ことを促した。注目させたい部分を画面に表示させたり拡大したりすることで，「見る」ことへ気持ちを向けさせることができた。また，「keynote」で「朝の会」や「帰りの会」の進行用の補助教材を作成し，発語がない児童の支援具としてiPadを活用した。以前使っていた支援具より意欲的に活用することができている。



中学部生徒：体育の授業で教師が事前に見本の踊りを動画撮影し、それを使ってダンスの練習を行ったり、生徒のダンスを動画で撮影して振り返りを行ったりした。また、総合的な学習ではインターネットで調べ学習を行い、それを「Keynote」で発表した。特別活動の仲間づくりでも、自分クイズを「Keynote」で作り、お互いに問題を出し合ったり回答し合った。「Keynote」では文字を書くことが苦手で、自分の書いた文字を読むことができない生徒も見栄えのいいプレゼンテーション資料を作成することができたり、興味を持って作成に取り組んだりすることができた。



高等部生徒：「AirDrop」機能によるデータの送受信など新たな使用方法を習得するとともに、「Keynote」を用いた既習事項のクイズに回答する姿や、発表用資料の作成で配色や文字の大きさ、レイアウトを工夫し、完成度を高める姿も見られた。



特に、高等部第1学年の生徒は、生徒が一人一台のiPadを購入・所有し、自ら作成した資料・データを保存して繰り返し活用するとともに、各種設定や文章の変換における辞書の学習機能により、より効果的な活用を進めている。また、モバイル・ルーターと組み合わせ校外に持ち出して位置情報を含んだ画像の撮影を行った。



## 5 その他の取組

### (1) 校内推進体制の構築

現行の校内分掌において、管理部が機器管理を、教育部が活用事例の収集を行うこととした。

### (2) ICT教材活用事例の収集、報告

校内授業研究会や校内研修をはじめ、折に触れてICT機器の活用を促すとともに、活用事例について尾道特別支援学校の本校とも情報交換し、公開研修会や広島県教育委員会が開催する報告会において実践事例を報告している。

### (3) ICT機器活用状況

高等部のみならず、小学部や中学部においても、ほぼ毎日授業で活用している。特に、高等部1年生（本年度入学生）については、就学奨励費により一人1台のタブレット型端末（iPad）を購入・所有し、自らのデータを保管して活用している。

## 6 成果と課題

### <成果>

- ・全教員と児童生徒の多くがICT機器の基本的な操作をできるようになってきた。
- ・教員は、「ICT機器を使った授業づくり」をするという意識がある。
- ・授業においてICT機器が自然な存在となっている。
- ・児童生徒の実態把握を、ICTの活用という視点も踏まえて行うようになった。

<課題>

- ・教員，児童生徒の操作に関する習熟度をさらに向上させ，機能を十分に活用できるようにする必要がある。
- ・「ICTの効果的な活用」という観点で授業内容や支援方法を評価・分析し，授業づくりや支援方法の改善に反映していく必要がある。
- ・児童生徒の「生活の質の向上」への結び付ける取組を検討し，実践していく必要がある。